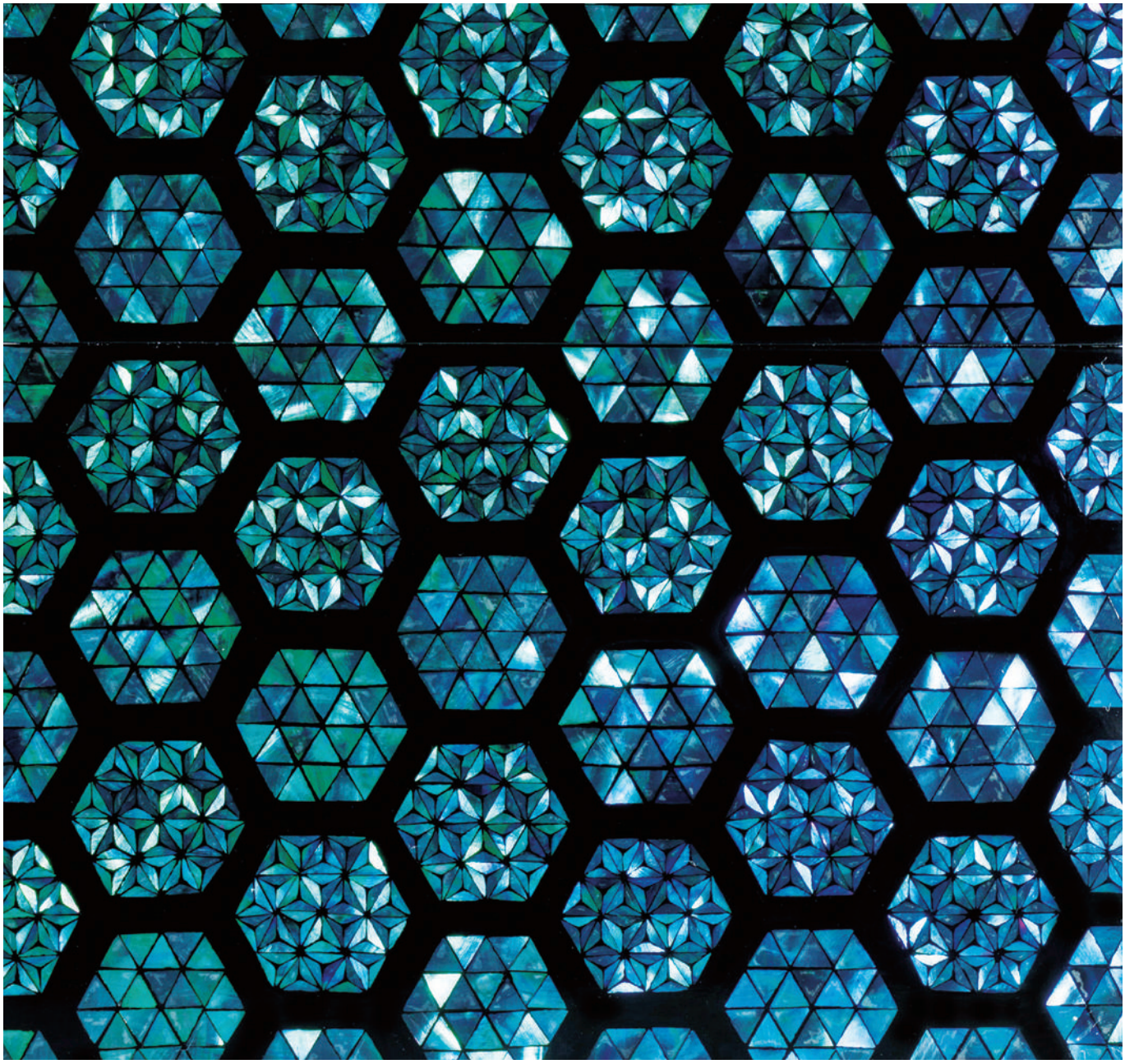
漆芸美術館だより



齋藤萌葉《螺鈿飾箱》2019年（部分・東北芸術工科大学卒業）

86

展覧会紹介：漆芸の未来を拓く ― 生新の時2019 ―
展覧会紹介：漆工の吉祥文 ― 祈り・願いの世界 ―
漆の小箱26：漆掻きの記憶 ― 漆を介した地域間交流 ―
2019年度友の会会員募集中
普及活動「おでかけ美術館」ご紹介
平成30年度寄贈作品紹介
手作り体験がリニューアル！　他

2019年5月23日発行

漆芸の未来を拓く（ひら）―生新（せいしん）の時2019―

会期　5月18日(土)～7月8日(月)　＊会期中無休

大学や大学院で漆工芸を学び、今春卒業および修了した皆さんの漆芸作品を展示する本展覧会は、2008年度に始まり今年で12回目を迎えました。瑞々しく若い感性の作品は私たちに新鮮な驚きと発見をもたらしてくれます。緻密に造りこまれたものから壮大で迫力のあるものまで多彩な作品43点が出品されます。今回は出品作の中から3点をご紹介します。

表紙の作品の「螺鈿飾箱」は1辺9センチの立方体の箱の側面全面に螺鈿で加飾を施しています。亀甲文、麻の葉文、鱗文などの伝統的な文様を組み合わせてデザインされており、漆の黒と、螺鈿のキラキラとした輝きの対比、螺鈿の持つ美しさを目で見て楽しめるとても華やかな小箱です。

「咲かす」は、磁器と漆で制作されたティーセットです。ソーサーとポットは白磁に漆を焼き付けたのち、呂色で仕上げ、ティーカップはあらかじめ穴の開いた磁器を制作し、その穴を金継ぎと乾漆を応用した技法で埋めつつ加飾しています。ポットにつぼみ、ソーサには葉、ティーカップに花が加飾され、お茶を注ぐという動作で花を「咲かす」ティーセットです。

「あゆみ」という作品は、作者が大学受験の際に京都水族館で見たオオサンショウウオがモデルです。大学入学後も、作品制作のイメージをつかみたいときや元気を貰いたいときに何度も水族館を訪れ、そのなかで生まれた作者の4年間のあゆみとこれからの思いがつまった作品です。

会場にはこの他にも豊かな感性に満ちた作品が揃います。また、下記の通り開催されるギャラリートーク及びシンポジウムでは、出品者の制作に対する思いについて意見交換を行います。この機会にぜひご来館ください。

（髙津綾乃）

関連事業

6月8日(土)　＊当日は無料開放

ギャラリートーク　13時30分～14時30分

シンポジウム　14時40分～16時30分

テーマ　「漆芸の道を目指す若者に伝えたいこと」

コーディネーター　齊藤晴之氏（富山大学教授）

《螺鈿飾箱》齋藤萌葉（東北芸術工科大学卒業）

《あゆみ》髙橋菜摘（京都市立芸術大学卒業）

《咲かす》岡 裕香（広島市立大学卒業・広島市立大学蔵）

漆工の吉祥文 ― 祈り・願いの世界 ―

会期7月13日(土)～9月8日(日)　＊会期中無休

改元を迎えた新時代の幕開けを寿ぐ展覧会として「漆工の吉祥文―祈り・願いの世界―」を開催します。吉祥文は古くから人々に親しまれ、結婚式などハレの場はもちろん、衣服や食器類にいたるまで様々な場面で用いられ、生活に彩りを与えてきました。それぞれの文様には長寿や子孫繁栄など人々の幸福への願いが込められています。本展覧会では鶴や亀、松竹梅、富士山など日本人に馴染み深い吉祥文様の描かれた漆芸品を、実用品・美術品問わず文様ごとに集め、意味や由来を紹介し、文様に込められた思いや願いを紐解いていきます。今回は2点の出品作をご紹介いたします。

「五福奉寿装身具筥」は輪島における最初の女流作家である天野文堂と夫・天野三郎による夫婦合作です。桃の花実は天野三郎による蒔絵、霊芝は天野文堂が沈金で手掛けています。中国の故事では、女仙・西王母が住む庭の桃実を食べると寿命が延びると言われ、桃は長寿の象徴とされてきました。

また、懸子には蝙蝠が沈金素彫によって施されています。蝙蝠は「蝠」が「福」と中国語で同音であることから、めでたい文様とされており、五匹の蝙蝠は五福（長寿・富裕・無病息災・道徳を好むこと・天命を全うすること）を表現しています。

「松竹梅蒔絵瓶子・輪島春慶塗錫入物」は瓶子に蒔絵で松竹梅の文様が描かれています。錫入物とは瓶子一対を覆箱に納めた酒器一具のことで、その名称は瓶子の多くが錫製であったことに由来します。正月や祭礼時の神棚に供えたり、祝事には先様の神様の供え物として清酒を詰めて贈物と一緒に届けることもありました。中国では松竹梅は「歳寒三友」と呼ばれ、厳寒でも緑を絶やさない松、真っ直ぐに伸びる竹、早春に咲き誇る梅が寒さに耐える姿を讃え、長寿を表すと共に、逆境にも耐え忍ぶ志操堅固な人の例えにしました。日本では江戸時代に慶祝の象徴として庶民にも広く浸透し、漆器だけではなく着物や陶器の絵柄など身の回りの道具に多く用いられました。

このほかにも会場にはバラエティ豊かな吉祥文様の漆芸品が並びます。華やかで奥深い吉祥文様の世界をどうぞ会場でお楽しみください。（山内亜沙美）

《五福奉寿装身具筥》天野文堂　1935～1944年（昭和10年代）

《松竹梅蒔絵瓶子・輪島春慶塗錫入物》19世紀後半～20世紀前半（明治～大正時代）
いずれも石川県輪島漆芸美術館蔵

関連事業

◉第1回漆文化セミナー
「工芸品にみる日本の伝統文様」
講師：並木誠士氏（京都工芸繊維大学教授）
日時：7月20日(土)　13時30分～

◉第2回漆文化セミナー
「春日大社の古神宝について」
講師：髙津綾乃（石川県輪島漆芸美術館学芸員）
日時：9月7日(土)　13時30分～

いずれも講義室にて　聴講無料・予約不要

漆掻きの記憶 ― 漆を介した地域間交流 ―

漆掻き道具一式（田頭忠男氏旧蔵、石川県輪島漆芸美術館蔵）

当館の「漆掻き」を紹介するコーナーには、輪島の漆掻き職人の道具一式が展示されています。当館『紀要』第5号（２０１０年・＊１）に報告された通り、旧所有者の田頭忠男さん（市内門前町谷口）は、長野県、岩手県、群馬県で漆掻きを行いました。なぜ、輪島に住まいながら、遠い土地で漆掻きを行ったのでしょうか。また、田頭さんはかの地でどのような生活を送ったのでしょう。長野県へ出稼ぎに赴いた当時を振り返り、お話しいただきました。

戦後、田頭さんは１９５５年（昭和30年）前後の約十数年間、福井県今立地方の親方、いわゆる越前衆（＊２）の吉田惣右衛門の下、漆掻き職人として働きました。田頭さんの父は親方に従事する番頭でした。番頭は漆掻き職人に先立ち、これから採取を行うウルシの見立てをしたり、人夫衆が生活する民家を探したりします。人夫はおのおの割り当ての拠点となる民家で生活します。長野県の場合、麻の栽培が盛んに行われていたため、屋内には麻の表皮を取り除く作業場がありました。夏の間は使われることがなく、人夫が寝泊まりする部屋にあてられていたそうです。田植えが終わったころ、穴水駅から列車を乗り継いで、長野へ渡ります。当時、漆掻きは羽振りがいい仕事でした。一番盛んなころで、近隣の集落から十五人前後の人夫衆が一斉に渡ったそうです。

朝は４時から５時の間に宿泊先を出て、日替わりで４か所を回り、目立て（＊３）を行い夏の盛りのころまでに徐々に掻き溝を伸ばして採取を行います。漆掻きを行う漆は１日で１００本ほど。作業は約半年間続きました。田頭さんは漆掻きを父に習ったと話していました。道具は、越前衆の親方が揃えたものを使いました。

採取した漆を持ち込む先は、長野の市街地の旅館に逗留する親方の元です。村田屋旅館は田頭さんの親方が毎年ひいきにした拠点宿でした。漆掻きを行うことのできない雨の日には小遣いの前借りもかねて、容器に詰めた漆を膝に抱えバスに乗ってやってくることもありました。１９８１（昭和56）年に閉業した同旅館には、漆掻き職人の名前が記された漆桶がのこり、長野市博物館に一部が寄贈されています。結婚した後は、妻も一緒に出稼ぎにやってきました。夏休みには子どもを呼び寄せて地域の人々と交流し、その後も文通を行うなど、楽しい旅の記憶が大きかったようです。

地元で建築業を興してからは漆掻きをやめました。そして、需要の低下や安価な輸入品への依存が高まり、いつのまにか出稼ぎの漆掻き職人は姿を消しました。しかしながら、漆を介した地域間の交流は、田頭さんの記憶の中に確かに残っていたのです。

（寺尾藍子）

＊１　松岡竹千雄「輪島市門前町地方（谷口・能納屋・滝之上）の漆掻きについて」

＊２　明治の初めころから漆掻きの出稼ぎを盛んに行った人々を指す通称。福井県内には多くの漆掻き職人がおり、ほとんどが出稼ぎを行った。

＊３　最初に漆にキズをつける作業のこと。漆の採取は漆掻き鎌で付けたキズから、染み出た漆を篦で掬い取って行う。

TOPIC 1

2019年度 友の会会員募集中

当館では魅力的な特典満載の友の会入会を随時受付けております。

会員の特典

1 招待券が進呈されます。

2 展覧会の入館料が、会員及び同伴者2名まで団体料金となります。

3 相互割引提携館主催の展覧会入館料が、団体割引となります。

4 「友の会だより」「漆芸美術館だより」ほか美術館情報等の提供が受けられます。

＊この他にも会員限定の催し、特典があります。

会費

◆個人会員　1年1，000円

◆家族会員　年額2，000円
（代表者と生計を共にする2名以上）

◆賛助会員
年額5，000円
（本会発展にご協力いただける個人及び団体）

TOPIC 2

普及活動「おでかけ美術館」ご紹介

石川県輪島漆芸美術館は、漆芸や芸術に関心のある若年層を増やすことを目的として、学校と連携した事業に力を入れています。その中から今回は、2013年度から実施している「おでかけ美術館」をご紹介します。

「おでかけ美術館」は、学校の空きスペースに輪島塗や漆芸作品、工程見本などを展示し、授業や休み時間などに活用してもらうためのプログラムです。当館までの移動時間が不要で、長休みや昼休みなどの空いた時間に気軽に見学してもらうことができます。さわれる輪島塗平皿の工程見本、輪島塗製作工程の動画、輪島塗や漆芸作品などを、解説パネルやキャプションと共に展示し、ご要望があれば学芸員による解説も行っています。これまで市内の小中学校のほか、内灘町や能登町など市外でも開催し、漆芸文化の普及に努めてきました。

お声がけがあれば、学校側と日程や内容などを調整し、無料で実施しています。手作り体験と組み合わせた親子行事として（要材料費）、また保護者や地域の方にもご覧いただけるよう、学校公開日に合わせて開催した例もあります。不定期開催ですが、機会がございましたらぜひご来場いただきたいと思います。

今後も当館『紀要』や『年報』、ホームページやフェイスブックなどで普及活動の様子を発信していきますので、ぜひご注目ください。

（河原法子）

TOPIC 3 手作り体験がリニューアル！

新しくなった手作り体験が好評受付中です。料金は大人700円～1,700円（展覧会もご覧いただけます）。詳しくはホームページをご覧ください。

体験を希望される方は
事前予約を
ご利用ください。

①沈金スプーン色付体験
あらかじめ文様が彫られたスプーンに金属粉で色付けできます。所要時間は約15分。

③蒔絵ストラップ体験
木片にスタンプを押して金属粉で仕上げます。所用時間約10分。

②沈金箸色付体験
①同様、あらかじめ文様が彫られた箸に金属粉で色付けできます。所用時間は約20分。

TOPIC 4 平成30年度 寄贈作品紹介

平成30年度は次の15件の寄贈がありました。厚く御礼申し上げます。

荒型
西端良雄氏寄贈

唐獅子文沈金飾鉢／前 大峰
木本保久氏寄贈

朱漆塗宗和膳・椀
横岩一忠氏寄贈

つくばね平棗／國田一春
漆華器／宮腰 強
楓造糸目朱溜塗六角杯洗／高桑林之助
霞鉋目朱吸物椀／美濃屋
五聖蒔絵結熨斗形銘々盆／湯浅華暁
花文堆錦丸盆
溜塗隅切膳／城取邦雄
乾漆菓子盆／根本曠子
山湖棗／小柳種圓
千筋香合／筑城良太郎
欅千筋挽菓子器／川北浩一
欅千筋中棗／向出二郎
匿名希望個人寄贈

イベント情報　2019年6－9月

＊予定は予告なく変更することがあります。
詳しくはホームページをご覧ください。

輪島市民まつり2019協賛特別無料開放
期日　6月1日(土)・2日(日)
期間中は全館無料でご観覧いただけます。

輪島市いけばな協会 花展
会期　6月1日(土)・2日(日)
会場　講義室　＊入場無料

漆芸の未来を拓く － 生新の時2019 － 関連事業
日時　6月8日(土)　＊当日無料開放
ギャラリートーク　13:30 ～ 14:30
シンポジウム　14:40 ～ 16:30

友の会主催 雅楽コンサート
日時　6月23日(日)　15:30開演
会場　講義室　＊入場無料

アート&ポエム キッズ鑑賞会
日時　7月28日(日)　13:30 ～ 14:30

うるわし夏まつり 2019
日時　8月10日(土)　11:00 ～ 16:00

輪島沈金業組合 新作見本展
会期　9月14日(土)～16日(月・祝)
会場　講義室　＊入場無料

漆芸美術館だより　No.86
2019年5月23日発行　編集・発行／石川県輪島漆芸美術館
〒928-0063 石川県輪島市水守町四十苅11番地 TEL 0768-22-9788 FAX 0768-22-9789 https://www.city.wajima.ishikawa.jp/art/